

Dr. ジーアの My カルテ

全農家畜衛生研究所
クリニックセンター



高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の侵入、蔓延を防ぐ

例年、11月を過ぎるとHPAIの発生シーズンとなり、野生動物対策、消石灰散布、消毒の徹底など、さまざまなHPAI侵入防止対策が必須となります。昨年度は養鶏場での発生はありませんでしたが、今回はHPAI対策のポイントを再確認いたします。

●野鳥によるHPAI侵入防止

野鳥がウイルスを持ち込むリスクを把握するため、環境省が毎年10月～翌年4月頃まで監視している野鳥のHPAIの報告結果を確認しましょう。

今シーズンは11月30日時点で野鳥由来検体からHPAIウイルス陽性報告は出ていませんが、例年11月以降にウイルス陽性報告が増加するため、油断はできません。表1のような対策を実施する事で、野鳥が接近、侵入しにくい環境づくりに取り組む事が重要です。

●HPAIウイルスに対する消毒薬の効果

敷地内やその周辺への散布によく消石灰が用いられますが、これは散布場所を移動する車両のタイヤや、従業員の長靴の消毒のほか、ネズミ等の野生動物は消石灰を避ける傾向があるため、鶏舎内への侵入予防の効果を期待しています。

消石灰の散布量は1㎡あたり0.5～1kgを均一に散布する事が推奨されており、散布頻度としては最低でも1週間に1度、降雨の際には追加の

散布が望まれます。

また、逆性石鹼などの消毒薬は、HPAIウイルスに対しても有効ですが、気温が下がる冬場や消毒薬への糞便の混入などで効果が弱まる場合があるため注意が必要です(表2)。

この対策として、例えば長靴の消毒では、先に予備洗浄槽で長靴に付着した糞便などを除去してから踏み込み消毒槽を使用する、鶏舎内に消毒槽を設置し水温低下を防ぐといった事も有効です。

●鶏群の観察も欠かさずに

こうした対策を十分実施していてもHPAIウイルスが侵入、発症している恐れがあります。

例えば、農場で表3のような症状や、「同一鶏舎内の1日の死亡率が過去21日間の死亡率平均の2倍以上」となった場合、特定の理由がある場合を除き、HPAIを疑い早期通報を徹底しましょう。

HPAIの早期発見及び蔓延防止のため、引き続き毎日の鶏群観察をお願いします。

表1 野鳥が接近、侵入しにくい環境づくりのために

1	鶏舎内への侵入の恐れがある隙間や破損個所の修繕
2	鶏舎周辺の除草、木の伐採
3	農場周辺へのワイヤーメッシュ、防鳥ネットの設置
4	排泄物の適切な処理、保管場所の侵入防止対策
5	飼料タンク周囲の落下飼料清掃

出典：農水省「飼養衛生管理基準の遵守状況のチェック表」を参考に作成

表2 10分間でウイルスを不活化できる消毒薬(逆性石鹼)の希釈倍率

低温の影響			鶏糞の影響		
25℃	5℃	消毒効果判定	存在無し	5%混入	消毒効果判定
3,200倍	200倍	著しく減弱	3,200倍	400倍	著しく減弱

出典：迫田ら「鳥インフルエンザウイルスに対する消毒薬の効果」(日獣会誌 60, 519～522)を参考に作成

表3 鳥インフルエンザが疑われる症状

- とさか・肉垂等のチアノーゼ、沈うつ、産卵率低下など
- 5羽以上の家さんがまとまって死亡またはうずくまっている

出典：農水省「高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザに関する特定家畜伝染病防疫指針」より抜粋